

# 秀歌三十首十今年の収穫

田中薰

祖母の笹団子積みあげられて一気に青の濃く  
なりし夏

十月号・大谷ゆかり

定型は不思議な鉄鎖牢獄の我解き放つ広き沃  
野へ

十亀 弘史

夫が言う「ただ居てくれるだけで良い」そんな  
人にはなりたくはなし

峰 由美子

平和とは衣服の売り場、新平和市場の衣服ど  
こまでもつづく

服部 崇

この街にこの日選びて目覚めたる七十一度目  
の夏の蝉

十二月号・梅原ひろみ

いつか君は傘を返しに来るだらう赤にありし  
が洗朱の傘を

岸並千珠子

最後尾車両の最後尾に乗れば車掌の生の声が  
聞こえる

武藤 義哉

テロップをさらりと人の死は流れひかりは夏  
の浜名湖を過ぐ

松本ちゑこ

葬列の準備に村は華やぎて垣根に白き花々の  
搖る

一月号・佐佐木頼綱

「許すこと練習すればできるよ」が口癖の人  
音立てて自送台車が我を追うまた薄暗き朝の  
廊下に

高橋 秀

立冬のスカイツリーの影長しその影に在り

父、母の墓

山内 晃子

月一輪凍湖一輪響き合ひましづかに鳴る冬の  
音楽

三月号・山口 明子

浮雲の約束さはれ海市への思ひ消残る この  
年暮るる

塙川 郁子

またトイレ行きたくなつたと云ふ母は悲しげ  
な顔 何度もいいよ

高山 邦男

「俺、変った?」へまつたく変らぬまつたく  
とこめたる力の嬉しかりけり 坂口 弘  
三か月先の火曜に○をして時がうつすら色付  
いてゆく

四月号・鈴木 陽美

美酒男子うましき歌を伴いて巻五に咲ける白  
梅の花

ぼくはぼくであるというみずたまり あなた  
はあなたであるというあおぞらである

安心を配った午後に疲れはて精神科医の長い  
うたた寝

山下 雅人

碎氷船右舷手すりのオホワシの糞に戦ぎぬ金  
の羽毛は

五月号・花 美月

この雪は甲斐駒ヶ岳の雪風に乗り降り來たる  
らし庭の木に降る

グラシン紙ほそく切りたる三日月が中空に浮